

# どこにいるかな？

# 探そう！

# 気になるいきものたち



発見報告のあったメッシュは、地図上の該当箇所にピンとメッシュコードで示してあります。

19-63

なかなか出会えないレアな生き物、市内での分布状況に注目したい生き物、特定外来生物など、「気になる」生き物を集めた企画です。今年もたくさんの情報をお寄せいただき、ありがとうございました。引き続きこれらの生き物たちを気にかけていただけますと幸いです。



## ホトギス

報告数  
15メッシュ

観察適期：5月～10月

5月下旬頃渡ってくる夏鳥。

カッコウの仲間で、ウグイスなどに托卵（自分の産んだ卵を他の個体に育てさせること）する習性がある。

鳴き声による確認がしやすい鳥。平野部でどのような分布があるか注目したい種。

### 調査結果・コメント

「万葉集」のころより歌に詠まれ、その鳴き声は「東京特許許可局」とか「テッペンカケタカ」とかさまざまに聴き取られています。ウグイスに托卵して子育てをしないのも皆さんの知るところです。ホトギス・ツツドリ・ジュウイチ等は「カッコウ」の仲間です。今年、私は見られませんでした。10月下旬頃、鳴かずに渡って行く所を見ただけでした（カッコウ類としかわからず）。報告数は昨年より少し少なかったようですが、発見場所はあまり変わっていません。

ぜひ来年度も注意して観察を続けてください。





# ミゾコウジュ

報告数  
3メッシュ

どこにいるかな？  
探そう！  
気になる  
いきものたち

観察適期：（花）5月～6月

環境省 準絶滅危惧種。市内数か所で確認できる。

シソ科の越年草で、5～6月に淡紫色の小さな唇形花（唇のような形をした花）をつける。この先どのメッシュで増え、また減っているか注目したい種。

## 調査結果・コメント

前年度は8メッシュで確認されましたが、今年度は3メッシュと減少し、その内2メッシュが富田地区でした。報告数が少なかったのか、確認が出来なかったのか、知りたいところです。田の畦道や日当たりの良いやや湿った土手の斜面などが見つけやすいと思います。



# ノアザミ

報告数  
18メッシュ

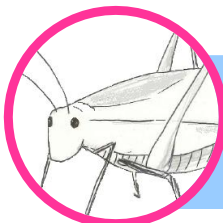
観察適期：（花）5月～6月

花が晩春から夏（5～6月）にかけて咲き、総苞（花の下の緑色になっている部分）に触るとネバネバしている点の特徴。アザミは種類が多いが、この2つの大きな特徴があるので誰でも判別ができる。市内の分布状況に注目したい種。

## 調査結果・コメント

今年度は前年よりも3メッシュ確認数が増え、18メッシュでした。その内5メッシュが河南地区からの報告でしたので、良い結果だと思えます。5月～6月に開花して総苞が粘っていれば、まずノアザミと見て良いと思います。





# クツワムシ

報告数

4メッシュ



観察適期：8月～秋

激レア昆虫。かつては河原にたくさんいたが、クツワムシが好む草地在なくなり数が激減した。令和元年度に市内で数年ぶりに生息が確認された。翅の先まで50mmくらいある大きな虫で、ガチャガチャとたいへん大きな声で鳴く。

## 調査結果・コメント

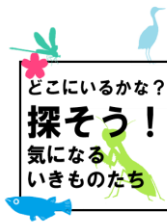
昨年にくらべ1ポイント減りましたが、嬉しいことに健在であることがわかりました。昨年度の報告を基に夜間探しに行きましたが、探し方が悪いのか確認出来なかったところもありました。今回報告された場所についても確認したいと思っています。大型昆虫であることから環境の変化に弱く、いつまでも生き続ける場所が残ってほしいものです。



# タガメ

報告数

0メッシュ



観察適期：5月～9月

国の絶滅危惧種で絶滅危惧Ⅱ類。体長45～65mm。メスのほうが一回り大きい。成虫で冬を越す。田んぼや池、流れの緩やかな水路にいることが多く、夜は明かりにも飛んでくる。以前は市内でも見られたが最近の確かな記録はない。レポーターさんのお力で是非見つけて欲しい。

## 調査結果・コメント

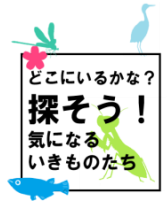
残念ながら報告はなかったです。群馬県では板倉町西岡(公民館の灯りに来た)、館林市若宮町(水路にいた)、明和町下江黒(水路にいた)、太田市飯田町(ガソリンスタンドの灯りに来た)が最近の記録としてあります(茶珍・金杉, 2022. 群馬県立自然史博物館研究報告(26):173-176.)。また小山市下生井では結構見られるようです。栃木県では県央や県北では田んぼの水路に普通に見られるところが少なからずあり、まるで昔の足利市にタイムスリップしたような感じになってしまっています。灯りや田んぼの水路などが探すポイントです。嬉しい報告を待っています。





# マシジミ

報告数  
3マッシュ



観察適期：5月～6月

淡水の河川の砂やどろの底にすむ二枚貝で食用になる。

ふつう、シジミと呼んでいる。

古くなると貝殻の頂上部分が白くはげ落ちる。

マシジミとよく似たタイワンシジミ種群が侵入して分布を拡大しており、マシジミは絶滅の危機にある。



## 調査結果・コメント

発見場所が限定されてきている傾向は変わりません。継続して調査していただいている様子が見られます。

各地点ごとに種類がどうなっているかに注目して、調査していただいていることは、大変ありがたいです。

タイワンシジミとの見分け方は、難しい(食用にしたものの残骸かの判断も含め)ので、経験が必要と思われます。



# ミズスマシ

報告数  
0マッシュ

観察適期：5月～9月

だ円形でつやのある黒色をした6mm程度の昆虫で、池や沼などのほか、流れの比較的弱い場所に住む。

水面を振動させると回転運動をはじめ。

冬は岸に上がって、枯草の間などで冬眠する。

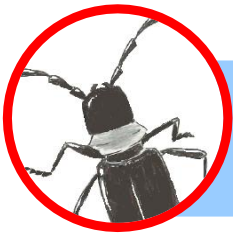
見つけるのはとても難しい。



## 調査結果・コメント

今年は発見できませんでした。

絶滅の危機が指摘されているため、今後も継続して注目していきたいです。きれいな水、又は豊富な水量がある場所を中心に、来年度もぜひ、調査にチャレンジしてください。



# クビアカツヤ カミキリ

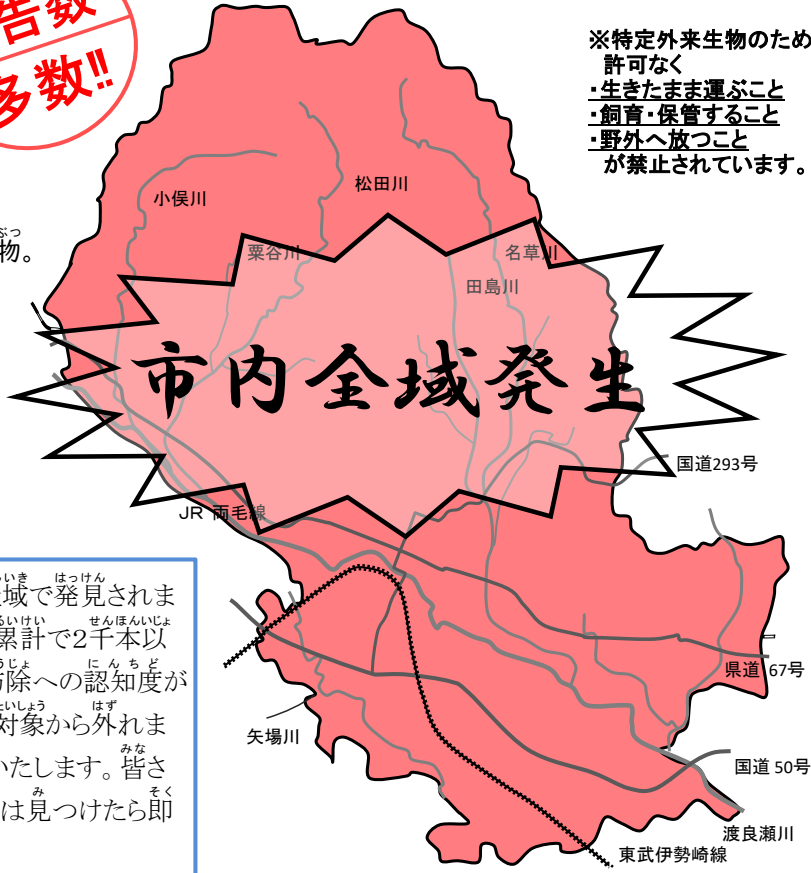
報告数  
多数!!

※特定外来生物のため、  
許可なく  
・生きたまま運ぶこと  
・飼育・保管すること  
・野外へ放つこと  
が禁止されています。

## 【特定外来生物】

中国・朝鮮半島・ベトナムなどが原産の外来生物。

幼虫がサクラ、ウメ等バラ科の樹木の内部を  
食い荒らしフラスと呼ばれる木くずと糞が  
混ざったものを排出する。被害を放置すると、  
被害木が枯死してしまう恐れがあり、  
駆除が必要な虫である。



## 調査結果・コメント

年々被害が拡大しており、今年度もほぼ市内全域で発見されました。我々も防除に努めておりますが、被害木は累計で2千本以上を超えてしまいました(8割がサクラの被害)。防除への認知度が高まったため、来年度は気になるいきものたちの対象から外れますが、今後も引き続き駆除へのご協力をお願いいたします。皆さんで足利のサクラやウメを守ってください！「成虫は見つけたら即捕殺！！」



市民ボランティア  
「クビアカみっけ隊」も募集中！！

